

第 23 回（平成 30 年度 第 1 回）黒部市公共交通戦略推進協議会 会議録

開催概要

- 日 時 平成 30 年 4 月 27 日（金）14：00～
- 場 所 黒部市役所 2 階 201～203 会議室
- 出席者 協議会委員 19 名

委員等名簿

区分	所属	役職	氏名	出欠等	備考
第 6 条 第 2 項 第 1 号	地域公共交通網形成 計画を作成しようと する市町村	黒部市長	大野 久芳	本人出席	会長
第 6 条 第 2 項 第 2 号	関係する公共交通 事業者等	富山地方鉄道株式会社専務取締役	中田 邦彦	本人出席	
		黒部市タクシー協会 会長	神谷 尚機	本人出席	
第 6 条 第 2 項 第 2 号	関係する道路管理者	あいの風とやま鉄道株式会社総務企画部長	助野 吉昭	本人出席	
		富山県新川土木センター入善土木事務所 所長	酒徳 鋼一	所長代理	茂崎 忠博
第 6 条 第 2 項 第 3 号	関係する公安委員会	黒部警察署長	坂田 俊一	本人出席	
	地域公共交通 の利用者 市民ボランティア	黒部市自治振興会連絡協議会	能登 政雄	欠席	
		黒部市民生委員児童委員協議会 会長	田村 豊嗣	本人出席	
		特定非営利活動法人黒部まちづくり協議会 ワンコインプロジェクトリーダー	菅野 寛二	本人出席	
		黒部市老人クラブ連合会 会長	村上 勝悦	本人出席	
		くろべ女性団体連絡協議会 会長	新村 恵子	本人出席	
		公募委員	中谷 靖子	欠席	
	政策支援 アドバイザー	東京大学大学院工学系研究科教授	原田 昇	本人出席	
	その他の当該市町村 が必要と認める者	北陸信越運輸局交通政策部交通企画課長	井藤 太亮	本人出席	
		北陸信越運輸局鉄道部計画課長	平山 一良	欠席	
		北陸信越運輸局富山運輸支局 首席運輸企画専門官	長谷川 僚一	本人出席	
		富山県観光・交通・地域振興局 総合交通 政策室次長 地域交通・新幹線政策課長	鈴木 邦夫	本人出席	
黒部商工会議所会頭		川端 康夫	本人出席	座長	
一般社団法人黒部・宇奈月温泉観光局代表理事		川端 康夫	本人出席		
YKK株式会社 執行役員黒部事業所長		浅野 慎一	本人出席		
富山県交通運輸産業労働組合協議会 議長	石橋 剛	本人出席			
宇奈月商工振興会	羽柴 進一	本人出席			

- 事務局：黒部市都市建設部都市政策課：島津部長、山田理事、廣木課長、神保主幹、下坂係長、大坂主事、水島技師

会議次第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 経過報告
- 4 議案
 - 議案第 1 号 平成 29 年度収支決算について
 - 議案第 2 号 平成 30 年度収支予算について
 - 議案第 3 号 黒部市公共交通戦略推進協議会規約の一部改正について
- 5 協議事項
 - 協議第 1 号 平成 30 年度交通まちづくり創生事業について
- 6 報告事項
 - 報告第 1 号 黒部市地域公共交通網形成計画の進捗状況について
 - 報告第 2 号 宇奈月温泉駅バリアフリー化の完成について
 - 報告第 3 号 愛本コミュニティタクシー及び南北循環線のダイヤ改正について
- 7 その他
- 8 閉会

開会

定刻通り開会した

挨拶（大野市長）

みなさん、こんにちは。

本日は、第 23 回黒部市公共交通戦略推進協議会を開催したところ、委員各位におかれましては、ご多用の中、ご出席いただきありがとうございます。

また、日頃から本市公共交通の整備と運営にご理解ご協力を賜っていることに対し、改めて心から感謝と御礼を申し上げます。

申し遅れましたが、本会の会長を務めます黒部市長の大野久芳と申します。去る 4 月 23 日に前堀内康男市長の後を継いで就任したばかりでございます。文字通り、今回が初めての協議会出席になりますが、本協議会は、本市の公共交通の将来を考えていく上において、非常に重要な場であると深く認識しております。座長を務めていただいております、黒部商工会議所の川端会頭や、本会の政策支援アドバイザーであります、東京大学の原田教授をはじめ、委員の方々におかれましては、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

さて、北陸新幹線開業から 3 年が経過し、去る 3 月 14 日には、JR 西日本主催による「北陸新幹線開業 3 周年記念式典」が黒部宇奈月温泉駅で執り行われたところであります。また、3 月 27 日には、富山地方鉄道宇奈月温泉駅のバリアフリー化が完成し、その完成式が執り行われました。バリアフリー化は、宇奈月温泉駅の利便性の観点からも長年の懸案事項であり、また、新幹線開業後のインバウンド対応の観点からも、その整備が急務となっております。これらのことからバリアフリー化の完成は、利用者の利便性向上及び利用促進に大きく寄与するものと考えており、宇奈月温泉駅の利用者増及び宇奈月温泉駅周辺の活性化に期待しているところであります。また、北陸新幹線黒部宇奈月温泉駅の利用者数につきましては、堅調に推移しているものと考えており

ますが、新幹線開業に合わせて整備してまいりましたバス路線網につきましては、残念ながら非常に厳しい状況が続いているところであります。観光やビジネスで本市を訪れる方や、他の地域から移住・定住され、新たに本市で生活される方、そして高齢者を含む既存の住民の皆様が快適に過ごしていただくため、公共交通の果たす役割は非常に大きく、今後黒部市が選ばれる地方都市となるために、備えるべき重要な機能のひとつであります。このようなことから、今後は持続可能な公共交通網の構築を目指し、地域の皆さんのご意見もお伺いしながら、必要なバス交通網の再編見直しを進めてまいりたいと考えております。

本日は決算・予算に関する議題のほか、今年度の交通まちづくり創生事業などを協議させていただきます。活発かつ有意義な協議会となりますようお願いを申し上げます。私からのご挨拶に代えさせていただきます。本日は、よろしくお願いいたします。

経過報告

●事務局から、資料に基づき経過報告を行った。

○進行：廣木課長

ただいまの経過報告について、ご質問があればお願いいたします。

特になし

○廣木課長

それでは、議事に移らせていただきます。

川端座長に進行をお願いいたします。

議事

（１）平成 29 年度収支決算について

●事務局から資料 1 に基づき、平成 29 年度収支決算について説明を行った。

○事務局から説明

○川端座長

監事である田村委員から監査報告をお願いする。

○田村委員

平成 29 年度事業報告及び収支決算について、適正に処理されていることを確認した。

○川端座長

議案第 1 号について、ご意見がある方はいるか。

昨年は、いろいろな事業を実施したと思っている。公共交通になるべく乗っていただきたいという思いから、いろいろなことをやってきた。なかなか思ったよりは苦戦しているが、続けることが大事と思っているので、引き続きやっていく必要があると思っている。

異議がないようなので承認させて頂いてよろしいか。

（拍手にて承認）

○川端座長

それでは、議案第 1 号を承認する。ありがとうございました。

（2）平成 30 年度収支予算について

●事務局から資料 2 に基づき、平成 30 年度収支予算について報告を行った。

○事務局から説明

○川端座長

何かご意見がある方はいるか。

○長谷川委員

一点事実関係の確認をさせていただきたい。事業費の委託料として、本年度予算額 200 万円と計上している形成計画進捗管理・改訂版作成業務委託の件である。黒部市においては、地域公共交通網形成計画が平成 27 年～平成 31 年の 5 年ということで、今はその期間中と承知している。改訂というのは、その先の平成 32 年度以降を見据えての改定の調査に着手するという理解でよろしいか。委託先は、策定時と同じようなコンサルタント会社を想定しているのか。

○事務局

市で策定している形成計画は、平成 27 年から 5 か年で計画しているもの。今回の改訂については、この策定が新幹線開業前に調査を行い、開業後の 4 月に策定したものであり、例えば、バスや電車等の指標も当時の設定と乖離した部分があることから、指標等を見直す。また、27 の事業を計画しているが、事業内容についても現状に沿った形での見直しを行うということである。また、その計画期間については、5 か年で変わりなく、31 年度までの計画を予定している。32 年度以降については、協議会で協議、相談しながら必要な策定をしていく予定である。コンサルタント会社については、当初の計画もコンサルタント会社に委託しているが、今回の改訂についても入札等の手続きを踏んで、コンサルタント会社への業務委託を考えている。

○長谷川委員

改訂というのは、平成 31 年度末までの間に計画の変更手続きを行うという理解でよろしいか。

○事務局

必要な手続き等を踏んで改訂を進めていく。

○長谷川委員

変更の場合、活性化再生法で新規の時と同様の手続きが必要となるので、あらかじめご承知おきいただきたい。

○川端座長

他に意見があるか。

特になし

○川端座長

議案第 2 号について、異議が無いようなので承認させて頂いてよろしいか。

（拍手にて承認）

○川端座長

それでは、議案第 2 号を承認する。ありがとうございました。

（3）黒部市公共交通戦略推進協議会規約の一部改正について

●事務局から資料 3 に基づき、説明を行った。

○川端座長

議案第 3 号について、ご意見がある方はいるか。

所管部署の変更に伴う改正である。

異議がないようなので、承認させて頂いてよろしいか。

（拍手にて承認）

○川端座長

それでは、議案第 3 号を承認する。ありがとうございました。

協議事項

（1）平成 30 年度交通まちづくり創生事業について

●事務局から資料 4 に基づき、平成 30 年度交通まちづくり創生事業について説明を行った。

○事務局から説明

資料 4 については、当市の交通まちづくり事業の基礎となる部分であり、例年と大きく変わるものではない。資料 4-2 で今年度の具体的な取り組みである 4 つの事業について説明する。

1 点目、交通手段選択モデルを活用した南北循環線の収支改善・最適化検討である。平成 28 年度に実施した移動履歴調査、平成 29 年度に実施した公共交通網最適化調査を踏まえ、交通手段選択モデルを用いた事業を実施する。交通手段選択モデルについては、誰しもどこかに行こうとする場合、自分にとって有利な、効率的で、楽な方法で行こうという気持ちが働き、最適な移動手段を選択するという考え方に基づくもの。図 1 について、選択の際、いくつかの影響する要因があり、それぞれ優先される重みがある。車社会において、いとも簡単に要因をクリアしてしまうのがマイカーであるが、その中でも公共交通をどのように組み

込んでいけるか、いろいろな調整を行なっていると理解していただきたい。

図 2 は考え方を南北循環線にあてはめたものである。南北循環線の一部路線を西と東に変更させたシミュレーションである。調査結果によれば、東に変更したほうが線が太いので利用者が増える可能性があるということを示している。

(2)平成 29 年度南北循環線の持続的運行検討結果概要については、南北循環線の利用者、沿線住民の皆様方に対し、実施したアンケート結果である。南北循環線は、認知しているが乗ったことがない割合が圧倒的である。利用状況からみた課題としては、通勤時間帯、日中、退勤時間帯の想定利用者数より多かかったり、少なかったりしている。いずれの利用においても異なる課題があがっている。アンケート結果からみた課題としては、退勤時間の増便、ルートの変更、バス停の増設やバス停そのものの環境改善が求められる結果である。持続可能な運行に向けた課題としては、1 台当たりの乗車率の設定、季節や天候要因の加味の方法、需給増減への対応、積み残しを小さくなど、引き続き議論が必要である。事業を維持する上で、最も重要な部分である通勤時間帯に一定量の収益がないと路線の維持が難しい。いろいろな調査結果を用いながら最適化を図り、収益を確保するなど、引き続き議論が必要である。

平成 30 年度事業について、先述の課題を踏まえ、交通手段選択モデルを活用し、南北循環線を本市の持続可能な成功路線となるよう改善を重ねる。本年度予算は 300 万円を見込む。

2 点目、次世代型交通システムの実用化に向けた実証実験についてである。平成 28 年度、石田地区の住民に協力いただいた「相乗型デマンドタクシー」の実証実験を実施。平成 29 年度にはアンケート調査を実施し、使い勝手、感想、意見を伺った。スマートフォンアプリからタクシー予約が可能なシステム。メリットとしては、あらかじめ登録した目的地を画面のワンタッチ操作で指定できる、予約内容が確実に事業者にも伝わる、営業時間外でも予約できるなどがある。需要が小さいエリアに適した公共交通ではないかと進めたものである。一方で、スマートフォンの扱いが困難なことが課題であり、今年度は電話予約も併用しながら実施する。前回は、実験期間が 1 か月程度であったが、今回は土曜含めた 70 日程度とし、東京大学のシステムを活用しながら再度実験を行なう。予算は 800 万円程度を見込む。

3 点目、モビリティハブの機能充実・運用・増設について。バス等の公共交通と自転車等の移動手段を結びつけ、移動の利便性を高める施設、モビリティハブ。雨風を防げるバス停に自転車置き場が備わる、いわゆる多機能型バス停。今年度は 1 基増設を計画。8 月に導入配備した無料で使用できる自転車「ちょいのり黒部」の台数増加を検討。バス等の公共交通を利用して、第一の目的地、例えば病院を利用したあと、ちょいのり自転車を利用して、第二第三の目的地、例えばスーパーや金融機関に立ち寄ることもでき、利便性や回遊性の向上を図ることができる。増設箇所は検討中であるが、既設は主に南北循環線沿線のバス停である、パシブタウン（黒部郵便局前）、中央小学校前で、路線の統一性・一貫性を考えると南北循環線沿線が自然な流れと考える。別路線では、マックスバリュが近くにある、コーレが考えられる。人が集まる、ちょいのり自転車で回遊できる範囲内ということでこれらも候補になる。地権者の理解も必要であり、スペースの有無に左右されるので、十分に検討していく。バス停工事費・自転車購入費として 1000 万円程度。

4 点目、モビリティマネジメント・ブランディングについては、利用促進に向けた啓発活動である。広報、ホームページ、CATV、コミュニティ放送等で媒体を利用し PR してきた。今年度も引き続き実施する。不定期であるが、協議会の広報誌である「公共交通で行こう！」も発行する。啓発活動で最も効果的と思われる体験乗車会も開催する。実際に公共交通を体

験していただき、ルートや使い勝手など、直接認知していただくことが大切と考える。町内会やいろいろな団体にお声がけし、一度でも乗ったことがある方々を着実に増やしていく。予算は 200 万円程度。

○川端座長

協議第 1 号について、ご意見がある方はいるか。

○鈴木委員

先ほど承認された予算のとおり、県からも支援することになっている。今年度の事業として池尻線の再編調査が入っている。池尻線の再編調査 200 万円の中に県の補助金 100 万円は含まれるのか。池尻線の再編事業の考え方は少し、使い道が間違っていたらすいません。

デマンドについては、県でも導入支援制度を持っている。システムには高齢者の方はなじみがなくて、どうしても使ってもらえない。10 年以上前から実施しても解決できていない課題である。スマートフォンに頼らない予約方式はやらざるを得ないし、必ずしもシステムでなくても、既存タクシー事業者も地域をご存知で、馴染みの方もいらっしゃれば、高齢者の方も頼みやすい。いかに高齢者が頼みやすい仕組みにしていけるか、観点としては大事。

先ほどの池尻線であるが、本日乗ってきた。昼過ぎだったが満席であった。これには驚いており、この時間にこれだけ乗るとなると、他の時間では積み残しが発生するのではないかと。再編調査や最適化を考えているのであれば、精緻なモデルを利用し、数値だけあてはめると、一定の時間は車両を大きくすることにもなりかねないと思う。運転手不足もあり、簡単には車両を大きく出来ないという制約も現在はある。車両は一定で、いかに分散して乗っていただくかということも考えなければならない。

車内で話をきいていると、今日の夕方の食事を作るためだけではなさそう、土日の買物もするような話であった。人によっては、この時間でなくてもいいかもしれないという方もそこそこおられる感じである。アンケートのとり方でも重要なところであるが、今何便に何人乗っている、この辺りには何人の人の移動需要があるかは、基本的におさえるとして、移動されている方に実際お話し聞いて、本当にこの時間じゃなきゃだめですか、他の時間・曜日でもどうでしょうかと個別に話しを聞いていただいて、それに合わせたシステムを提供するとともに、そういうふうに乗っていただくように、地元の方に機運を作っていただくということも重要かと思う。今ほどの説明にあった路線でも、少し積み残しが発生するかもしれないところについては、池尻線と同じような話ができるかもしれないので、是非とも利用される方から粘り強く話を聞いて、場合によっては、少し生活パターンを変えていただくとか、使っていただく時間を検討いただくとか、住民の方にも是非協力していただく形で、路線の見直しや最適化を考えていただければいいかと思う。

○事務局

アドバイスいただいたとおりである。池尻線の再編については、小型化したことで、満員になりそうなど、運行事業者とも情報共有している。積み残しが発生しそうという状況は、検討しなくてはいけないと考えている。

今年度実施する調査の中で、利用者の声を聞くことは第一であると考えている。生活のスタイル、乗る時間を分散、変えていただくようなご協力がいただけるかということも、地域と協

議・相談していきたい。

デマンドの仕組みについては、今年度も実証実験を行うこととしている。平成 28 年度実施の実証実験では、スマートフォンの利用について、我々が思った以上に年配の方は抵抗を持っていた。黒部には黒部のやり方という時代に反したアナログ式になるかもしれないが、例えば、電話で受け付けたものを、運行事業者側で入力するようなシステムの運用もあると考える。東京大学とも協議を進め、次回協議会で実証実験の提案を考えている。

○長谷川委員

資料 4-2 利用者アンケートの結果で、回答数が 30%以上の項目に着色があるが、その次に回答が多かった「鉄道や他路線バスとの乗り継ぎの改善」も 25.9%と、なかなか大きな数値で大事である。再編ということで検討していただくところで、本協議会においても運行事業者が参加しているので、バス単体のみならず、鉄道との連絡性の確保も念頭におきながら改善すると良いと思う。

○事務局

アドバイスは参考にさせていただきます。

○川端座長

ダイヤ改正については、事業者の委員と協力しながら利便性の高いダイヤに調整するよう協力いただいているが、より一層の協力をいただき、乗りやすい、乗り継ぎしやすい公共交通にしていきたい。

協議第 1 号について、他に異議がないようなので承認させて頂いてよろしいか。

(拍手にて承認)

○川端座長

それでは、協議第 1 号を承認する。ありがとうございました。

ここで、アドバイザーである原田先生から一言お願いします。

○原田委員

東大と相談しているということで、私、大野名誉教授、モデルやアンケートなどを担当する羽藤先生の体制で、東京大学に打合せに来ていただいた時は、全員で集まって黒部市さんと協力して進めている。羽藤先生や大野先生から、いろいろな提案があった場合、黒部市にそぐわない提案もあることもあり、相談していただければ調整して、柔軟に対応していきたい。交通まちづくり創生事業は、いろいろな形でお金を集めていただいて、いろいろな形で公共交通をよくするというので、積み上げてきている。相乗り型のタクシーについても、分析したデータを踏まえて、黒部の実情に合った形でもう一度実験してみようとしている。Plan・Do・Check・Action、計画してやってみて、問題があったら直してもう一度やってみようということで、繰り返しやることで、少しずつ進んでいくという形で、モビリティハブについても進んでいると思う。ちょいのり黒部についても、ニュースレター「公共交通で行こう！」をあらためて見ていて、100 円入れて 100 円返ってくる、ただで乗れると分かり、今日

は35分くらいに着いたので乗ってみました。あまりスピードは出ない、やさしいつくりになっている。黒部駅へ向かうところに少し坂があるので少し休みましたが、市民病院、K-HALLに行きました。黒部市民病院、K-HALLのバス停の横にも、皆さんが喫茶するような場所があることに気付いた。そういうものがそろって出来ているので、町の中で少し動くということが出来るかなと思う。意外とコストをかけないやり方で、多機能バス停も少しデザインを工夫してやっているもので、期待している。場所も増やしているということなので、是非皆さんに乗っていただきたい。

夜にまち大という社会人学生の授業があって、今日も授業があるため、もうそろそろ出発しなければいけないが、その中でも話させていただいている。市民、企業、市役所の3つのスクラムが非常に強い黒部の交通まちづくり創生事業で、大学からもアイデアを出させて頂いている。これからも協力して進めて行きたい。

今日は、大野市長の就任挨拶の最初に「健やか」とあった。健やかといえば、黒部市公共交通ガイドのP7にあるように、公共交通を使うと健康的なダイエットができるとある。自転車はそうだし、歩くということでも健康になるので、よろしく願いたい。

報告事項

(1) 報告第1号 黒部市地域公共交通網形成計画の進捗状況について

- 事務局から、資料5に基づき報告を行った。

○川端座長

報告第1号につきまして、何かご意見はあるか。

いろんな事をやりながら、何回もルートを変えたり、なるべく乗って頂けるような、乗って頂きやすい取組を行い、少しずつ効果は出てきているのかなという気もするが、一方でまだまだ利用客、利用客数が伸びないなという思いもある。

ご意見等がないようですので、次の報告事項に移りたいと思います。

(2) 報告第2号 宇奈月温泉駅バリアフリー化の完成について

- 事務局から、資料6に基づき報告を行った。

○川端座長

宇奈月温泉駅バリアフリー化の完成に対しまして、事業主体の富山地方鉄道(株)中田委員さんから一言願いたい。

○中田委員

色々ご協力頂きまして、バリアフリー化と合わせて案内看板やトイレも出来たということで、利用しやすい駅になったと思っているが、先程の鉄道本線の利用状況の中にもありました通り、宇奈月温泉駅の利用が減少した。

どうしても、黒部峡谷鉄道さんの利用の数字と比例する部分があり、昨年は大雨の関係で

トロッコ電車が何日か運休したということがあった。今年度については、宇奈月温泉の魅力を当社としても PR し、鉄道線と黒部峡谷鉄道さんとの連携を図り、せっかくいい駅にしたので、多く利用して頂けるようにしていきたい。

○川端座長

ありがとうございました。

(3) 報告第 3 号 愛本コミュニティタクシー及び南北循環線のダイヤ改正について

●事務局から、資料 7 に基づき報告を行った。

○川端座長

これについては、特に意見はないと思いますので進めさせて頂きたいと思います。

それでは、その他ということで何かございますか。

○長谷川委員

黒部市さんの協議会におかれては、今年度初めての協議会ということでもあり、北陸信越運輸局のご案内をさせて頂きたいと思います。

「地域公共の活性化・再生に関するお役立ち資料集」ページの概要をご用意いただければと思いますが、お時間頂戴いたしまして簡単に説明させて頂きます。

北陸信越運輸局におきましては、地域公共交通網形成計画の作成を始めとする地域公共交通の活性化再生に向けた自治体の皆様の取り組みを推進させて頂いているところであります。

こうした中、一部の自治体様ですとか事業者の皆様から公共交通に関する最新情報が直ぐにわかるようなページが現況ない、欲しいなどと要望を受けまして、これまで国土交通省の本省や各地方運輸局で作成していた、公共交通に関わるような調査物件の結果の成果物やマニュアル報告書を、ワンストップで確認できるように、これらの資料を集約して、北陸信越運輸局のホームページにアップしましたので、この場をお借りして皆様にご案内致します。

そして、もう一つお願いしたいのですが、「活発で良い議論ができる会議のために。」ということです。この協議会は、住民代表の方、公共交通事業者の皆様、行政代表の方、学識の先生、関係者の方、皆で話し合っただけで地域の公共交通の望ましい体制に如何にということ話し合っただけで決める場ということだと思っております。新潟、長野、富山、石川県を管轄しているのですが、協議会においては、協議会における発言者が学識の先生、県担当者、運輸局とかの人ばかり発言して、何となく住民の皆さんが発言していないように思われます。この見開き 2 ページをご覧頂きたいのですが、もしかしたら、ちょっとこう言う事を話していいのかなと言う事で、発言できずにそのまま会議が終わってしまうような傾向があるのが事実としてあるところです。せっかく会議を開催する訳で、しかも年に数回という限られた会議ですから、誠にせんえつですが、やはり各構成員の皆様から活発に意見が交わされて、地域の公共交通がより望ましい在り方を皆さんで話し合っただければと思います。

その為には、5 ページ開いて頂きまして、実はこれは事務局様に変な申し訳ないのですが、会議資料の当日配布となると、なかなか当日目を通してから意見をと言われても、率直なところ厳しいのかなと思います。

私も役所の人間ですので、別な会議で事務局をしていましたので、確かに役所の都合で当

日配布をやっていました。そこはお詫びしますが、構成員の皆様の立場にしてみれば、いきなり資料をこの場で見て意見をと言われても、中々厳しいところもあると思いますので、これは事務局様大変申し訳ないのですが、資料につきましては、出来れば事前に構成員の方に配布頂いて、構成員の方が意見を準備出来るような体制をして頂ければ、より望ましい協議会が活発に行われるのではないかと考えておりますので、是非宜しくお願ひしたいと思ひます。

○会長

ありがとうございます。

まさに言われる通り、活発な議論ができるよう対応して頂ければと思ひます。

そのほかに事務局から何かありますか。

○事務局

それでは、事務局から議員の皆様へ、ご案内と言ひますか、お願ひも含めたご案内になります。

水色の「体験乗車会のご案内」というチラシが、お手元の最後の資料に配布されているかと思ひます。

先程、バス路線の利用者数について、事務局からご報告させて頂きましたが、市内のバス路線の利用者数は、非常に厳しい状況が続いております。

そのような中、昨年度に引き続き、運行事業者さんのご協力も頂きながら、今年度も年間を通じて無料の体験乗車会を開催したいと考えております。

この体験乗車会につきましては、非常に地味で地道な取り組みなのかなと考えておりますが、まず1回バスに乗って頂くと、そういったことが大事なのかなと考えております。

ご年齢の方ですとか、ご高齢の方、小さいお子さんがおられます若い世代の方のお話を聞いておりますと、公共交通は不便だというお声も頂いておりますが、それ以上に公共交通に対する不安の声が思った以上に多いのかなと感じております。

バスは前から乗るのか後ろから乗るのか、はたまたバス停が何処にあるのか、走っているバスの運賃はいくらなのか、そういった不安を一つずつ解消していくことで公共交通に対する考え方、そういったものも改善できるのではないかと考えております。

そういった事から委員の皆様におかれましては、こういった体験乗車会の周知・PRを是非お願ひしたいと考えておりまして、それと同時に是非各種団体の皆様におかれましては、まず一度是非申し込みをいただければと思ひます。市の職員も可能な限り一緒に乗車して、乗り方ですとかそういったものをご案内させて頂きたいと思っております。地道な取り組みかもしれませんが、まず一回乗っていただき、そういった市民、地域の人達を増やす事が出来ないかなと考えておるところでございます。

事務局からは以上であります。

○川端座長

ありがとうございました。

せっかくの機会でございますので、皆さんの方からもし何か報告等ございましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。

ないようですので、以上を持ちまして座長の役割を辞させて頂きたいと思えます。どうもありがとうございました。

○事務局

川端座長さん、ありがとうございました。

本日は、色々貴重なご意見等を賜りまして、事務局といたしましても、さらに公共交通を充実させて頑張っていきたいと思っている次第でございます。

それでは、以上で本日の協議会の日程は終了しました。

閉会にあたりまして、大野会長にご挨拶を頂きたいと思えます。

宜しくお願い致します。

閉会（大野市長）

それでは、閉会にあたりまして、一度ご挨拶を申し上げます。

本日、ご出席の皆様方には、大変長時間にわたりご協議頂き、誠にありがとうございました。

また、黒部商工会議所会頭であります川端座長さんには、円滑な議事運営を務めて頂き、誠にありがとうございました。感謝を申し上げます。

今日も沢山の協議等と報告がございましたが、特に報告事項の中でも触れましたとおり、バス路線の利用者数が全体としては微増ではありますが、依然、厳しい状況が続いております。

このバス路線網を持続可能な運行としていくためには、再編あるいは見直しもやむを得ないと考えておりますが、何よりも利用者数を増やさなければなりません。

また、私達一人一人がマイレールあるいはマイバスという意識を持って、市民運動として公共交通を盛り上げていく取組が肝要であると改めて認識を致しております。

そういったことから、本日お集りの皆様方には、本協議会の委員として、また、それぞれご出身のお立場から、本市公共交通の維持・発展に引き続きご指導・ご協力を賜りますようお願いを申し上げまして、閉会にあたってのご挨拶とさせていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。

○事務局

以上を持ちまして、黒部市公共交通戦略推進協議会第 23 回協議会を閉会させていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。